

資源状況に応じた種苗放流の推進

〈ニゴロブナ栽培漁業推進事業〉 事業費:33,495 千円 補助金:22,330 千円
(補助先:(公財)滋賀県水産振興協会)

～事業の背景～

琵琶湖の固有種で、ふなずしの原料であるニゴロブナの漁獲量は、平成元年ごろは200トン近くありましたが、一時18トンにまで落ち込みました。しかし、種苗放流など様々な取組みにより徐々に増加し、平成23年以降には50トン近くまで回復してきました。

～事業の内容～

水田を活用した種苗放流(全長20mmサイズ)と、晩秋期の琵琶湖沖合への秋稚魚放流(全長120mmサイズ)の2種類を放流しています。ニゴロブナの種苗生産・放流は(公財)滋賀県水産振興協会が行っています。

～事業の実績～

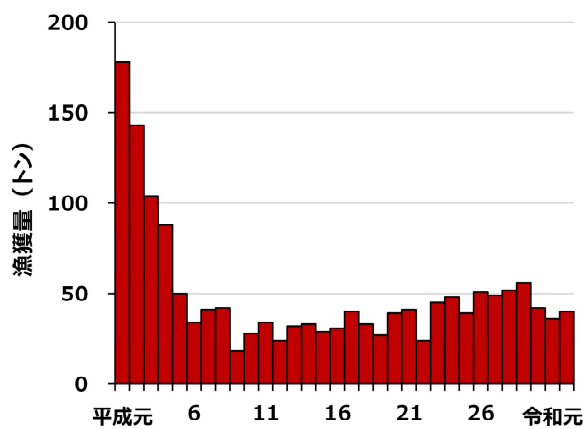
令和3年度は、ニゴロブナ種苗の全長20mmサイズを1,059.1万尾、120mmサイズを98.5万尾放流しました。



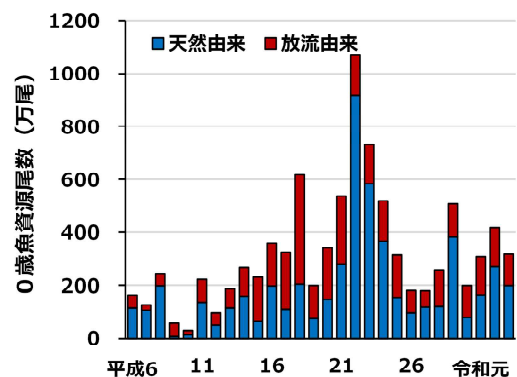
水田育成種苗(全長20mmサイズ)の流下



秋稚魚(全長120mmサイズ)の放流



【琵琶湖におけるニゴロブナ漁獲量の推移】



【ニゴロブナ0歳魚資源尾数の推移】

水産試験場調べ